

事例4 兵庫県南あわじ市（吉備国際大学）

農学系

市内高校跡地を有効活用。地元農家とともに充実した学生受け入れ体制を構築

事例の概要

南あわじ市は淡路たまねぎを中心に農業・畜産が盛んであり、農学部との親和性が高いことは本事例の特徴です。吉備国際大学は東京圏に本部がある大学ではありませんが、実習・フィールドワークの場の提供や島内移住の支援、地元農家における雇用(アルバイト)など、様々な側面で地域と大学の連携が見られる事例の1つです。

兵庫県 南あわじ市

基礎データ

- 人口：46,000人
- 面積：229.2km²
- ※南あわじ市のHPより
- 都市特性
兵庫県と徳島県の中央に位置し、淡路島という特
有な環境を有している。



キャンパス設置前の課題

- ①高校跡地の活用方法の検討
- ②市内の空き家の活用
- ③市内在住の若年層の減少

吉備国際大学

基礎データ

- 設立年：1990年
- 本拠地：岡山県高梁市
- 学生数：1,729名（2020年度）
- 学部：社会科学部・保健医療福祉学部・心理
学部・アニメーション文化学部 等
- 他地域のサテライトキャンパス：
岡山県岡山市

キャンパス設置前の課題

- ①農学部キャンパスの設置先の検討
- ②学生の居住環境の確保

吉備国際大学 南あわじ志知キャンパス

基礎データ

- 設置年度：2013年度
- 学生数：222名
- キャンパス面積：15,000m²
- 設置学部：農学部（地域創成
農学科・醸造学科）

キャンパスの特徴

- 淡路島の自然豊かな環境が
キャンパス内外に存在して
おり、農学部の研究・教育に最
適な環境が特徴のキャンパス
です。
- 地域貢献活動として地域の
高齢者を対象とした「健康教
室」や、地域の方向けの生涯
学習の場「まちなかゼミナ
ル」を開講しています。

設置にあたっての地方公共団体からの支援

設置前支援

- キャンパス設置事業費全体
の3分の2の金額を市が負
担
- 補助金の支給による民間企
業との共同での学生マン
ションの整備

設置後支援

- 入学後、南あわじに居住す
る学生を対象に入学金を市
が補助
- 大学連携推進協議会の設置
と同協議会に対する毎年の
補助金による支援

サテライトキャンパスの誘致・設置の沿革

| 年度 | 内容 |
|------|--|
| 2011 | 南あわじ市と順正学園が「大学学部設置基本協定書」を締結 |
| 2012 | 県と市、市と大学それぞれが志知高校跡地の土地について無償賃借契約を締結 |
| | 細目協定書締結 文部科学省へ本申請 文部科学省認可、学生募集開始 |
| 2013 | 南あわじ志知キャンパス開校 |

キャンパス設置の効果と課題

南あわじ市では、「高校跡地の活用方法の検討」「市内の空き家の活用」「市内在住の若年層の減少」などの課題を抱えていました。本キャンパスの誘致も志知高校跡地の活用方法の検討の議論の中から発足し、跡地の有効活用に成功しています。また、市内在住を条件とした入学金補助や卒業後の定住を見据えた支援を進めることで、若年人口減少の抑制など、キャンパス誘致が市の課題解決に寄与しています。



南あわじ志知キャンパス 外観

キャンパス設置の効果

- ・ 市内の跡地・空き家の有効活用
- ・ 市内在住の若年層の増加
- ・ 市内農家における雇用(学生アルバイト)の創出

キャンパス設置後の課題

- ・ 学生の居住環境の不足
- ・ 入学志願者の減少

誘致のポイント

① 兵庫県・南あわじ市が誘致大学と連携協定を締結

- ・ 本事例では、県と市が相互に連携を強化し、人材育成、地域課題の解決及び地域活性化を図るため、大学と包括的な連携協力協定を締結しました。その結果地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援する「地（知）の拠点整備事業」（文部科学省）に吉備国際大学が採択されました。



② 地元農協との連携協定締結

- ・ 大学・市・地元団体が密に連携をし、関係を深めてきたことから協定を締結しました。本協定では、相互の資源の交流・活用を図り、将来にわたる双方の発展に寄与を目的としています。本協定によって、市政だけでなく、地元団体、地元住民を巻き込んでの大学の受け入れ体制を構築できたことが継続的な関係構築に繋がっています。



③ 大学からの要求に対する柔軟な対応と体制構築

- ・ 本事例では、財政面や土地・建物、環境面など様々な側面から大学や学生への支援を誘致前後で行っています。その中には大学側からの要望により実施をしているものも多く、大学との協議の場を多く持ち、その要望に柔軟に答えていくことと機動力の高い組織づくりが重要なポイントとなっています。